



GS 連続シンポジウム 2007

まちづくりへのブレイクスルー 水辺を市民の手に取り戻す

第2回「鍤もって、都市公園をみんなの庭に - 豊田・児ノ口公園」
12月15日(土) 15:00-18:20 / 東京大学 工学部 1号館 15号教室

入場料：一般 /1000円 学生 / 無料

<http://www.groundscape.jp/>

主催 / GS デザイン会議 後援 / 土木学会 景観・デザイン委員会

サポート / (株)アトリエ74 建築都市計画研究所、(株)アール・アイ・エー、(有)eau、伊藤鉄工(株)、(株)INAX、(株)オオバ、(有)小野寺康都市設計事務所、(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)建設技術センター(株)コトブキ、(株)GK 設計、清水建設(株)、(株)住野日軽エンジニアリング、大成建設(株)、(株)竹中工務店、(株)長大、東京コンサルタンツ(株)、戸田建設(株)、(株)内藤廣建築設計事務所、(株)日建設計シビル日本工営(株)、日本電気硝子(株)、プロトフォルム、(株)文化財保存計画協会、前田建設工業(株)、三井不動産(株)、ヨシモトポール(株)、(株)ワークヴィジョンズ

まちづくりへの ブレイクスルー

GS 連続シンポジウム 2007



水辺を市民の 手に取り戻す

GS デザイン会議では、まちづくりや空間デザインにおける、分野を超えた専門家間のデザイン体制（コラボレーション）の重要性を指摘し、その実践に取り組んできました。そして現在、全国各地でその成果が着実にたちあらわれつつあります。とくに、都市やまちのなかで重要な位置を占める水辺に注目し、水辺の整備から『まち』への面的な波及効果を持たせる手法は、津和野川（島根県津和野市）や油津・堀川運河（宮崎県日南市）などで大きな成果を挙げており、まちづくりの定石のひとつになると考えられます。

しかし、空間整備を進めるにあたっては、必ずといってよいほど、さまざまな制度や限られた予算、旧態然としたしがらみなどの制約が存在

しています。これまでに実現した良い事例は、いわばそれらと悪戦苦闘してきた証であり、そこには今後に通じる知恵が数多くあるはずです。こうした知恵の共有化はまちづくりに携わる人間にとって重要な課題であり、GS デザイン会議は、各地で孤軍奮闘している行政担当者や実務設計者、市民への情報を発信するべく連続シンポジウムを開催します。

シンポジウムでは、現実の壁を乗り越えたデザイン事例の過程に焦点を当てます。まちづくりの現場の問題に対する本音の話を引き出し、どのような人がどのような役割を果たし、最終的にどのような空間に結実したのかを手がかりにし、今後のデザイン戦略を議論します。第二回は豊田市の児ノ口公園の試みから、まちづくりと公園のあり方を問います。

第2回

「鉢もって、都市公園をみんなの庭に - 豊田・児ノ口公園」



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5

児ノ口公園は、愛知県豊田市の名鉄豊田市駅からほど近い、住宅地に囲まれた公園である。2004 年には、土木学会デザイン賞の最優秀賞を受賞している。

もともとここには、児ノ口神社という小さな社があり、その脇に矢作川支流の五六川が流れている。その後、昭和 30 年代に神社周辺の五六川が暗渠化され、市営プールやグラウンドを備えた都市公園が整備された（写真 4）。

公園施設が老朽化してきたこともあり、平成 5 年に豊田市役所の木戸氏らは、五六川の復活とともに都市公園を「野生化」させる計画をたてた。そして、まず五六川に流す水を矢作川から取水する許可を建設省（当時）から取りつけ、公園の「野生化」に向けた住民説明会をおこなうが、当初は住民たちの同意は得られなかった。しかし、ある日を境に昔の風景を知る年寄りたちが「何もなくても山と川さえあれば子どもたちは遊ぶことができる」と主張し始め、市は住民が満足しなければやり直すという条件のもと工事に着手した。市の木戸氏らに年寄りたちも加わり、雑木林の

山をつくるためポット苗を植え、近自然工法を用いて五六川を再生し、現在のような公園をつくりあげた。

いざ公園が出来上がってみると、当初の反対が嘘のように好評であった。その証拠に、住民たちは自発的に児ノ口公園管理協会をつくり、花見の会や田植え、餅つきなど様々なイベントを催し、雑草やゴミの除去などの管理をおこなっている。さらには、市に公園管理棟という民家のような集会所も作らせてしまった。（写真 2）。公園というよりは、共同の庭というのがふさわしい空間になっている。

事業実現には多くの苦労があったはずである。しかし、木戸氏をはじめとする関係者はそうしたことを口にしない。それどころか、あたかも大人の姿をした少年たちが、せっせと自分たちの遊び場をつくり、そこで楽しんでいるかのような印象を受ける。おそらくは、こうした姿勢が、この公園の魅力に大きな影響を与えている。

当日は、再生された公園が地元のコミュニティをも構築していく過程に光をあてていく。

プログラム

司会進行 中井 祐（GS 幹事長 / 東京大学大学院）

15：00 - 15：15 開会挨拶 篠原 修（GS 代表 / 政策研究大学院大学）

15：15 - 15：45 基調講演 木戸 規詞（豊田市役所）

15：45 - 16：15 基調講演 佐々木 葉（GS / 早稲田大学大学院）

16：30 - 18：00 パネルディスカッション+会場質問

進行役：内藤 廣（GS 代表 / 東京大学大学院）

パネリスト：木戸 規詞（前出）/ 成瀬 順次（児ノ口公園管理協会）/ 吉村 伸一（㈱吉村伸一流域計画室）

佐々木 葉（前出）/ 小出 和郎（GS / ㈱都市環境研究所）

18：00 - 18：15 閉会挨拶 内藤 廣（前出）

18：15 - 18：20 次回シンポジウム告知

18：30 - 20：00 懇親会

登壇者略歴

木戸 規詞

豊田市役所 技術専門監（参事）

1948 年生まれ。1970 年豊田市役所土木部土木課入庁。主なプロジェクトに、矢作川（犬伏水制工、豊田大橋付近護岸）、ソウレ川、平成記念橋など。

スイス・ドイツ視察で近自然河川工法に出会い。その後、「生命系の土木技術」をテーマに、水辺整備をきっかけとするまちづくりに取り組む。矢作川漁業協同組合の理事でもあり、児ノ口公園のキーパーソン。

成瀬 順次

児ノ口公園管理協会 事務局長

1946 年生まれ。通称「山屋のジンちゃん」。家業の雑貨屋「山屋」経営のかたわら、豊田市竹生町商店街理事長を務めるなど地元の発展に尽力。1995 年の児ノ口公園愛護会発足時から現在まで事務局長。住民説明会の際に、地元の年寄り連中とともに賛成派のリーダーシップ的役割を果たす。定期的にイベントをおこない続ける児ノ口公園管理協会のリーダーの一員。

吉村 伸一

（株）吉村伸一流域計画室

代表取締役
1948 年生まれ。室蘭工業大学土木工学科卒業。横浜市役所を経て、1998 年に吉村伸一流域計画室を設立、現在に至る。技術上、主なプロジェクトに、和泉川東山の水辺・閑ヶ原の水辺（土木学会デザイン賞最優秀賞）と和泉川親水広場、和泉川地蔵原の水辺、いたち川稲荷森の水辺、石井樋地区歴史的水辺整備事業など。

内藤 廣

東京大学大学院 教授

1950 年生まれ。早稲田大学大学院建築学専攻修了。フェルナンド・イグーラス建築設計事務所、菊竹清訓建築設計事務所勤務を経て、1981 年内藤廣建築設計事務所設立。2003 年より現職。設計作品に、海の博物館（日本建築学会賞）、牧野富太郎記念館（毎日芸術賞、土木学会デザイン賞最優秀賞）、苦田ダム管理庁舎、島根県芸術文化センター、JR 日向市駅など多数。

佐々木 葉

早稲田大学大学院 教授

1961 年生まれ。早稲田大学建築学科卒業、東京工業大学大学院社会開発工学専攻修了。（財）電力中央研究所、東京大学工学部助手、名古屋大学工学部助手、日本福祉大学助教授を経て、2003 年より現職。博士（工学）。専門は、景観論、土木デザイン。主なプロジェクトに、ブルーアイングモジ、郡上八幡新橋、津・松坂港香良州地区海岸、中部国際空港対岸人工海浜など。

小出 和郎

㈱都市環境研究所 代表取締役

1946 年生まれ。東京大学工学系研究科都市工学専攻修士課程修了。1972 年㈱都市環境研究所入社、1983 年代表取締役就任、現在に至る。主なプロジェクトに、櫻原市今井町の保存・まちづくり（1976 年～現在）、長野市今井ニュータウンデザイン調整、その他歴史的環境保全、景観まちづくり、都市計画制度研究など。長岡造形大学環境デザイン学科非常勤講師。

参加申込方法 / WEB サイト <http://www.groundscape.jp/sympo/071215/> の応募フォームからお申込みいただくか、会員（個人・サポート・ユース）／非会員・氏名（ふりがな）・所属（会社名または学校名）・連絡先（メールアドレスまたは電話番号）・シンポジウム参加申込み人数・懇親会参加申込み人数をご記入の上、ファックスにて GS デザイン会議事務局までお送りください。尚、定員になり次第締め切らせていただきます。

問い合わせ先 / GS デザイン会議事務局

電話: 03-5805-5578 / FAX: 03-5805-5579

Web: <http://www.groundscape.jp> E-mail: info@groundscape.jp

会場案内図 /

